＜巻頭言＞

次の10年、20年に向けて～
「変革する力：力量あるソーシャルワーカーへの途」の学びを、生涯キャリア形成支援に活かす

社会事業研究56号で取り上げる、第55回日本社会事業大学社会福祉学会研究大会の大会テーマは、昨年度に引き続き「変革する力：力量あるソーシャルワーカーへの途」と設定して、6月25日26日に卒業生、在学生、教職員、一般参加者の計625人を集めて開催しました。本大会テーマの副題は、昨年度は「地域包括ケアを問う」でしたが、今年度は「生活困窮者自立支援を問う」として、2年間にわたって、こんにち日本の福祉領域で重要な課題となっている二つの大きなテーマを論議する構成としました。主タイトルである「変革する力：力量あるソーシャルワーカーへの途」は、今年、本学が創立70周年を迎えるに当たって、先駆的な活動に取り組んで来た卒業生や力量ある実践家からその経験を継続して学び、本学の今後の指針としたいと考えたからでした。

記念講演では生活困窮者自立支援制度のモデルとなった釧路市の実践を構築されて来た櫛部武俊氏にご講演を頂き、指定発言者として本学卒業生である潮谷義子理事長、大橋謙策元学長／同窓会長が本学の卒業生の活動と結び付けるご討論を頂きました。また座長には日本の生活困窮者支援制度をリードして来られた本学卒業生の岡部卓首都大学東京教授にお務め頂き、テーマに関わる議論を発展させて頂きました。

また二日目のシンポジウムは、テーマを「変革する力:力量あるソーシャルワーカーの養成」に設定して、清瀬世代によるシンポジストの報告と、指導した教員の立場から高橋利一先生、佐藤久夫先生にコメントを頂きました。この他本学を卒業して「力量あるソーシャルワーカーへの途」をたどって来られ、今年度木田賞を受賞された佐竹順子様（社会福祉法人慈愛会理事／1958年卒)、殿村壽敏様（社会福祉法人精神障害者社会復帰促進協会理事長／1974年

卒）に、受賞に関わる実践的なスピーチを頂き、有意義な意見交換を行いました。

こんにち日本社会は戦後 70 年を経過して、戦後混乱期からの復興、高度経済成長の活況を過ぎて、成熟社会に向き合っています。このような中、新しいタイプの福祉課題が次々に生み出され、解決の途が模索される一方で、取り残された多様な課題が制度の狭間問題、満たされないニーズの問題として露呈しています。これらの困難状況に対して、本学の伝統である開発的で積極的な社会事業・ソーシャルワークをどのように、新しい時代に即して創り出し、実践に移し替えて行けば良いのか。またそれを本学の教育・生涯教育支援にどのように活かして行けば良いのか。本学は「生涯キャリア形成」の拠点校として、卒業生をはじめとした実践現場と連携しながら、これから 10 年先、20 年先を見通しながら、皆さんと共により良い教育と実践を創り出して行きたいと考えています。

2017 年 1 月

日本社会事業大学社会福祉学会会長
日本社会事業大学学長
大　嶋　　巌